

編者 & 執筆者紹介

久塚純一（ひさつか じゅんいち） 早稲田大学社会科学総合学院教授（Ⅰ, Ⅲ, Ⅴ執筆）

オススメの1冊！

タイトル→『官報』（各号）独立行政法人国立印刷局

オススメの理由→歴史的流れや議論を追いかけるためには必ず読まなければならないし、読むといろいろなことが見えてくる。

山田省三（やまだ しょうぞう） 中央大学法科大学院教授（Ⅱ執筆）

オススメの1冊！

タイトル→『保険と年金の動向 2014/2015』（厚生統計協会, 2014年）

オススメの理由→社会保険を統計面から概観するのに好適である。

松井良和（まつい よしかず） 中央大学兼任講師（Ⅰのコラム執筆）

オススメの1冊！

タイトル→大山典宏『生活保護 VS ワーキングプア』（PHP新書, 2008年）

オススメの理由→ケースワーカーを経験した筆者が現場での具体的事例を通じて社会保障のあり方を描いた1冊になっている。

奥貫妃文（おくぬき ひふみ） 相模女子大学人間社会学部専任講師（Ⅱのコラム執筆）

オススメの1冊！

タイトル→移住連貧困プロジェクト編『日本で暮らす移住者の貧困』（現代人文社, 2011年）

オススメの理由→日本で生きる外国人を「差別」という従来の視点を越えた「貧困」という視点で考察しており、興味深い。

河合 壘（かわい るい） 岩手大学人文社会科学部准教授（Ⅲのコラム, Ⅸ, Ⅹのコラム, Ⅹ-1のコラム執筆）

オススメの1冊！

タイトル→小山進次郎『生活保護法の解釈と運用 改訂増補』（復刻版）（全国社会福祉協議会, 2004年）

オススメの理由→生活保護法立法担当者による、立法当時の解説書（復刻版）。立法当時の行政サイドの抱えていた「理想」や「ジレンマ」は、今の時代においても決して色あせていない。生活保護に好意的な人も批判的な人も、「役人の書いた、そんな大昔の本なんて」などと思わずに、ぜひ一度触れてみてほしい。

森田慎二郎(もりた しんじろう) 東北文化学園大学医療福祉学部教授(IV執筆)

オススメの1冊!

タイトル→駒村康平『日本の年金』(岩波新書, 2014年)

オススメの理由→年金制度の現状と課題, 改革の方向性がコンパクトに分かる。バランスのとれた「中庸の思想」で乗り切ろうと主張する。

滝原啓允(たきはら ひろみつ) 中央大学法学部助教(IVのコラム執筆)

オススメの1冊!

タイトル→長尾龍一『法哲学入門』(講談社学術文庫, 2007年)

オススメの理由→社会保障法を支える基本原理, あるいは法の根底にあるものについて考える前提として読みたい1冊。堅苦しさはなく, 楽しく読める。

佐々木達也(ささき たつや) 明治大学法学部助手(Vのコラム執筆)

オススメの1冊!

タイトル→桐野高明『医療の選択』(岩波新書, 2014年)

オススメの理由→国民皆保険制度, 超高齢社会, 治療法の視点から, 日本の医療制度が抱える問題が論じられている。医療費や混合診療, 介護の主体などに関する「選択の論点」が示されており, 今後の社会保障について考える契機を与えてくれる。

長谷川聡(はせがわ さとし) 専修大学法学部准教授(VI執筆)

オススメの1冊!

タイトル→今野晴貴『ブラック企業——日本を食いつぶす妖怪』(文春新書, 2012年)

オススメの理由→労災にも結びつく日本の過重労働の実態や問題点が見えてくる。

帆足まゆみ(ほあし まゆみ) 東京国際大学非常勤講師(VIのコラム執筆)

オススメの1冊!

タイトル→後藤文夫『超高齢者医療の現場から』(中公新書, 2011年)

オススメの理由→総合社会福祉施設の中にある病院の院長として, 日々の診療から, 85歳以上の超高齢者や認知症高齢者の医療と介護の現状を紹介し, それらが抱える問題を示している。高齢者医療・介護について考えさせられる1冊。

春田吉備彦(はるた きびひこ) 沖縄大学法経学部教授(VII, VIIのコラム執筆)

オススメの1冊!

タイトル→脇田滋・矢野昌浩・木下秀雄編『常態化する失業と労働・社会保障』(日本評論社, 2014年)

オススメの理由→長期失業や不安雇用の増大といった社会実態に対して, 「半失業」というキーワードをもとに社会保障法および労働法の観点からアプローチする。瑣末な制度解説ではなく, これからのあるべき雇用保障制度を考察するうえで不可欠な着想が展開されている。

小西啓文（こにし ひろふみ） 明治大学法学部教授（VII, VIIIのコラム執筆）

オススメの1冊！

タイトル→増田雅暢「逐条解説——介護保険法」（法研，2014年）

オススメの理由→介護保険の創設業務に従事した筆者による「羅針盤（コンパス）」（同書の「はじめに」）たるを旨とした注目の1冊。

長沼建一郎（ながぬま けんいちろう） 法政大学社会学部教授（X-1, 2, 4執筆）

オススメの1冊！

タイトル→カール・ポラニー（野口建彦・栖原学訳）「[[新訳] 大転換」（東洋経済新報社，2009年）

オススメの理由→「読まれざる名著」との雰囲気も漂うが、市場や労働、そして福祉の問題を根本から考えるためには欠かせない文献。著名なスピーナムランド論を含む。

金川めぐみ（かながわ めぐみ） 和歌山大学経済学部准教授（X-3執筆）

オススメの1冊！

タイトル→石川結貴「ルポ子どもの無縁社会」（中公新書ラクレ，2011年）

オススメの理由→児童虐待や子どもの貧困など、現代社会における子どもの問題がリアル伝わってくる1冊。

榊原嘉明（さかきばら よしあき） 名古屋経済大学法学部准教授（X-3のコラム執筆）

オススメの1冊！

タイトル→遠藤公嗣・筒井美紀・山崎憲「仕事と暮らしを取りもどす——社会正義のアメリカ」（岩波書店，2012年）

オススメの理由→社会保障と雇用からこぼれ落ちる現実。そのほころびとすき間を埋める「コミュニティ・オーガナイズング」とは？ 新たな打開策のヒントに。

永井順子（ながい じゅんこ） 北星学園大学社会福祉学部准教授（X-5, 6執筆）

オススメの1冊！

タイトル→青木省三「ぼくらの中の発達障害」（ちくまプリマー新書，2012年）

オススメの理由→発達障害への理解を進めながら、多様な生が共存する社会を考えることのできる1冊。